

令和7年度～令和9年度

八潮市GIGAスクール構想

(八潮市立小・中学校ICT環境整備計画)

令和7年3月 作成

八潮市教育委員会

目次

第1章 計画策定にあたって

- 1 計画策定の趣旨
- 2 国の動向
- 3 計画の位置づけ
- 4 計画の期間と整備計画

第2章 一人一台端末の利活用に係る計画

- 1 一人一台端末を始めとするICT環境
によって実現を目指す学びの姿
- 2 GIGA第1期の総括
- 3 一人一台端末の利活用方策

第3章 端末整備・更新計画

端末の整備・更新計画の考え方
(整備台数と整備スケジュール)

第4章 ネットワーク整備計画

- 1 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、
総学校数に占める割合(%)
- 2 必要なネットワーク速度の確保に向けた
スケジュール

第5章 校務DX計画

- 1 現状と課題
- 2 課題策と今後の方向性

第1章 計画の策定にあたって

1. 計画の趣旨

超スマート社会（Society5.0）の到来により、これまでにない新たな価値の創造と展開が可能な時代を迎えつつある。それは、不透明で変化の激しい時代ともいえるが、新たな創造の時代への過渡期でもある。このように、急速に変化する社会状況の中で、子供たちは、課題解決型学習などにより、身近な事象から解決すべき課題を見出し、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出すことなど、学習指導要領で育成を目指す資質・能力が一層強く求められている。

学習指導要領では、情報活用能力が言語能力、問題発見・解決能力等と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置づけられ、「各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図る」ことが明記されるとともに、小学校においては、プログラミング教育が必修化されるなど、積極的にICTを活用することが求められている。

また、校務の効率化による教職員の事務作業の軽減と子どもたちと向き合う時間の更なる確保を推進する有効なツールとして、教職員の働き方改革の側面からも大いに期待され、今までにない変革を与える可能性を秘めている。

しかしながら、情報活用能力の育成を図るためには、教員のICT活用指導力の向上のため、計画的かつ効果的に研修の機会や、整備するICT機器を有効に活用する方策を具体的に示す必要がある。

以上のことから、八潮市が目指す学校教育における情報化の基本的な考え方と進めるべき方向性を示すため、本計画を策定する。本計画に基づき、学校教育の情報化について共通のビジョンを持ち、多様な子どもたち誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む新しい八潮の教育を推進していく。

2. 国の動向

令和5年6月に閣議決定された「第4期教育振興基本計画」では、「少子化・人口減少、グローバル化の進展、地球規模課題、格差の固定化と再生産など、様々な社会課題が存在する中、Society 5.0を見据え、これからの社会を展望する上で、教育の果たす役割はますます重要となっている。」と述べられ「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を掲げ、5つの基本的方針と16の教育政策の目標、基本施策及び指標を示している。



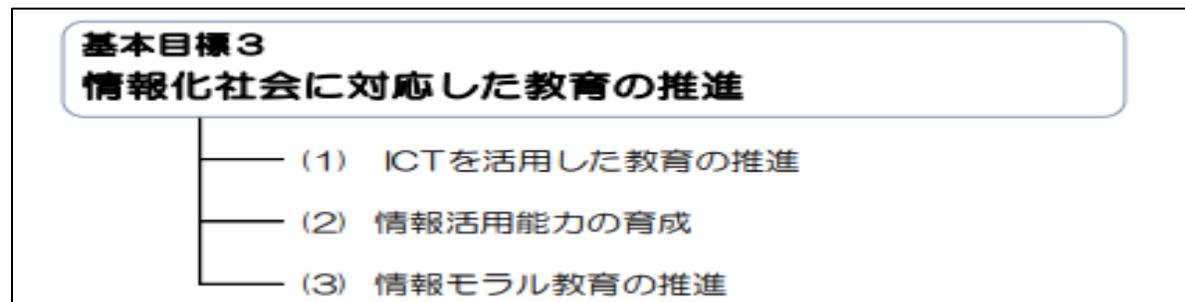
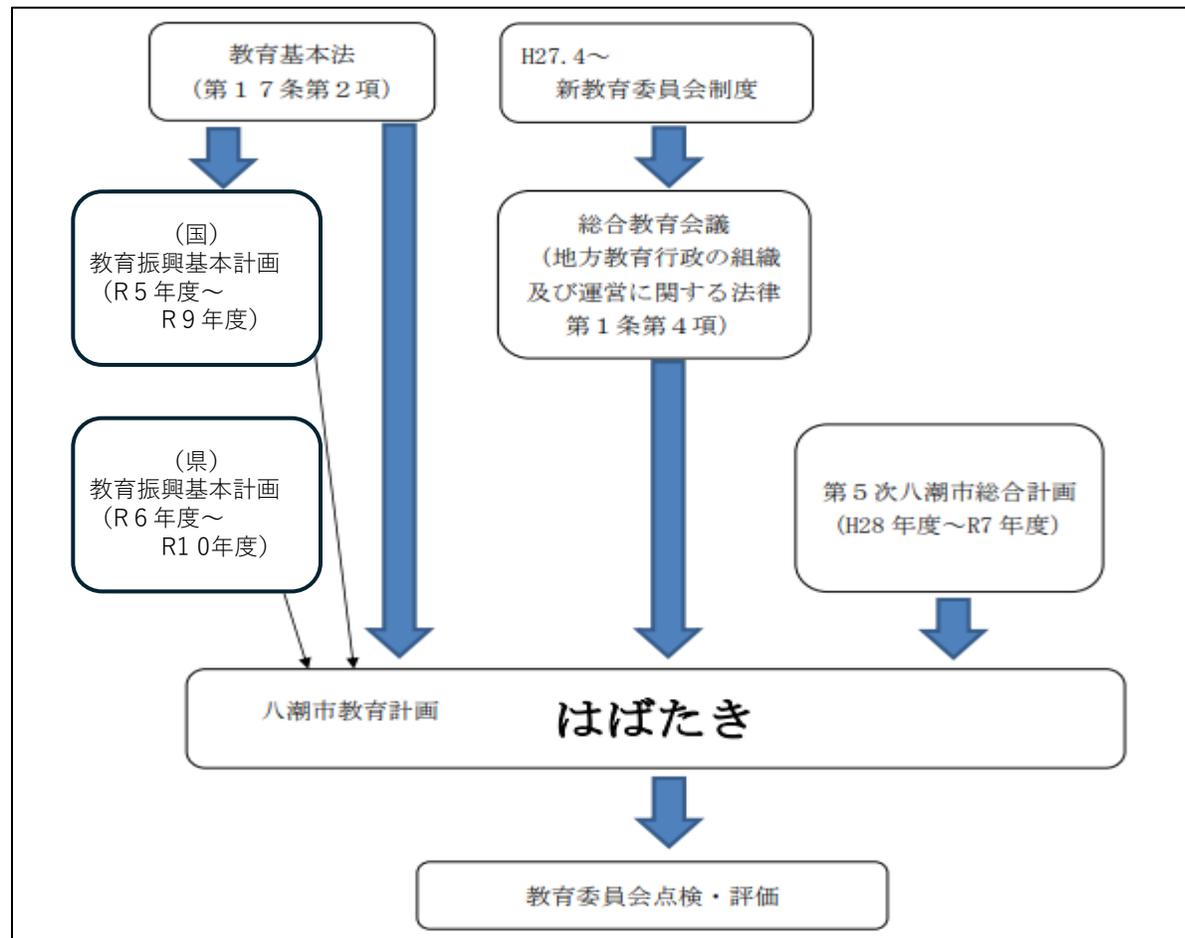
基本方針④では「教育デジタルトランスフォーメーション(DX)」の推進が示され、「今後、社会全体のデジタルトランスフォーメーション(DX)、メタバース活用、Web3.0等の推進に向けた環境整備が加速していく中で、教育の分野においてICTを活用することが特別なことではなく「日常化」するなど、デジタル化を更に推進していくことが不可欠である。」と述べられ、より一層の教育DXの推進が求められている。



3. 計画の位置づけ

八潮市では、市の最上位計画である「第5次八潮市総合計画」や「国や埼玉県の教育振興基本計画」を踏まえた教育行政分野における計画である「八潮市教育計画はばたき」、市の教育の目標や施策の方針を定める「八潮市教育大綱」を策定し、教育施策を推進してきた。

本計画は、これらの計画の中で掲げられている「情報化社会に対応した教育の推進」の中で、「ICTを活用した教育の推進」「情報活用能力の育成」「情報モラル教育の推進」における目指すべき姿を実現するための計画である。



4. 計画の期間と整備計画

(1) 学校のICT環境整備3か年計画(2025～2027年度)【文科省】

- 文科省では、「令和7年度以降の学校におけるICT環境の整備方針」を策定するとともに、整備方針を踏まえた「学校のICT環境整備3か年計画(2025～2027年度)」を策定した。
- 『本整備方針は、現行の学習指導要領を前提にしつつ、1人1台端末の整備をはじめとした急速なICT環境の進展による変化を十分に踏まえ策定したものです。学校におけるICT環境整備は、一人一人の子供を主語にする学校教育の目指すべき姿を実現するための視点から、これまでどおりの指導や学習を単に効率化する付加的なものではなく、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実等を図る上で必要不可欠な学習基盤であることなどを踏まえ検討する必要があること等を示しています。あわせて、学習基盤としてのICT環境整備において、最低限必要とされ、かつ、優先的に整備すべきICT機器等の設置の考え方及び機能の考え方について整理しています。』【文科省HPより】

学校のICT環境整備3か年計画(2025～2027年度)

- GIGAスクール構想により実現した1人1台端末環境を前提として「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために不可欠な学習基盤であるICT環境整備のため、「学校のICT環境整備3か年計画(2025～2027年度)」を策定
- 必要な事業費は単年度で1,464億円とし、所要の地方財政措置

学校のICT環境整備計画(1,464億円)

※★印の機器については、元利償還金に対する交付税措置があるデジタル活用推進事業債（仮称）の対象

計画において措置されているICT環境の水準

<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校のネットワーク ■ 高校生の学習者用端末 ■ 教師の端末等 ■ 学校のニーズに応じたICT支援体制 ■ 教室のICT機器 	<ul style="list-style-type: none"> ・「当面の推奨帯域」を満たすなど 必要なネットワークを確保している学校 ・無線LAN ・指導者用端末★及び校務用端末 ・業務用ディスプレイ ・次世代型校務支援システム 又は 統合型校務支援システム ・電子黒板等の大型提示装置★/実物投影機 	<ul style="list-style-type: none"> : 100% : 100%整備 : 生徒数の3分の1程度 : 1人1台整備 : 1人1台整備 : 100%整備 : ICT支援員4校に1人配置 : ヘルプデスクの設置 : 各普通教室1台 : 特別教室用として各学校に6台
--	--	---

※予備機や低所得世帯生徒等への貸与機等
※次世代型校務支援システムへ順次移行
※多数の自治体が共同設置することも考えられる
※実物投影機は、小学校及び特別支援学校に整備

上記のほか、充電装置(充電保管庫・モバイルバッテリー)、児童生徒用端末のセキュリティ対応、学習者支援ツール*についても整備
*各教科等の学習活動に共通で利用可能なツール(例：教師と児童生徒間・児童生徒同士で資料共有や作業の進捗確認ができるツール)や、児童生徒の学校生活を支援するツール(例：児童生徒の心や体調の変化を早期に発見し、支援するツール)

※ 上記に加え、GIGAスクール構想加速化基金を活用した義務教育段階の端末整備(補助率2/3)の地方負担分として単年度373億円を措置

【参考】文部科学省が公表している教育DXに係る当面のKPI

- 必要なネットワーク速度を確保している学校100%(令和7年度)
- 次世代の校務システムを導入済みの自治体100%(令和11年度)
- 教職員の働き方改革にも資するロケーションフリーでの校務処理を行っている自治体100%(令和11年度)

(別添資料2)学校のICT環境整備3か年計画(2025～2027年度)

(2) 本市の整備計画

- (1)を参考とし、本市における整備計画は右表のとおりとする。
- 計画を具体的かつ効果的に推進していくために、教育委員会が中心となって、学校との連携を密にしながら取り組むことにより、計画の進捗管理を行う必要がある。進捗管理については、PDCAサイクルの考え方に沿って、毎年度各施策の実施状況の把握を行い、各施策内の評価基準に基づき評価する。また、必要に応じて、目標達成に向けた課題整理と取組内容の見直し及び改善を行う。計画の最終年度である令和9年度には最終評価を行い、次に目指していくべき方向性を見出し、次期計画に生かしていく。

	令和7年度	令和8年度	令和9年度
学習者用 端末更新	中学校分を更新(1月)	小学校分を更新①(1月)	小学校分を更新②(1月)
教師用端末	中学校分を整備	小学校分を整備①	小学校分を整備②
授業支援 ソフト	授業支援ソフト AI型ドリル Google Workspace for Education		
ネットワーク 増強	小・中学校15校整備		
大型提示 装置	ディスプレイ型を 段階的に整備		
ICT支援員	一人/15校 ※基準は1人/4校		増員を検討
ICT研修会	ICTスタート研修 Googleコア研修 情報モラル・生成AI等		
校務端末 校務支援システム			学習用端末との統合に向けた検討
ダッシュボード	スクールダッシュ ボードの導入検討		スクールダッシュボードの導入
その他	教育情報セキュリティポリ シー策定検討 デジタル教科書の活用推進		

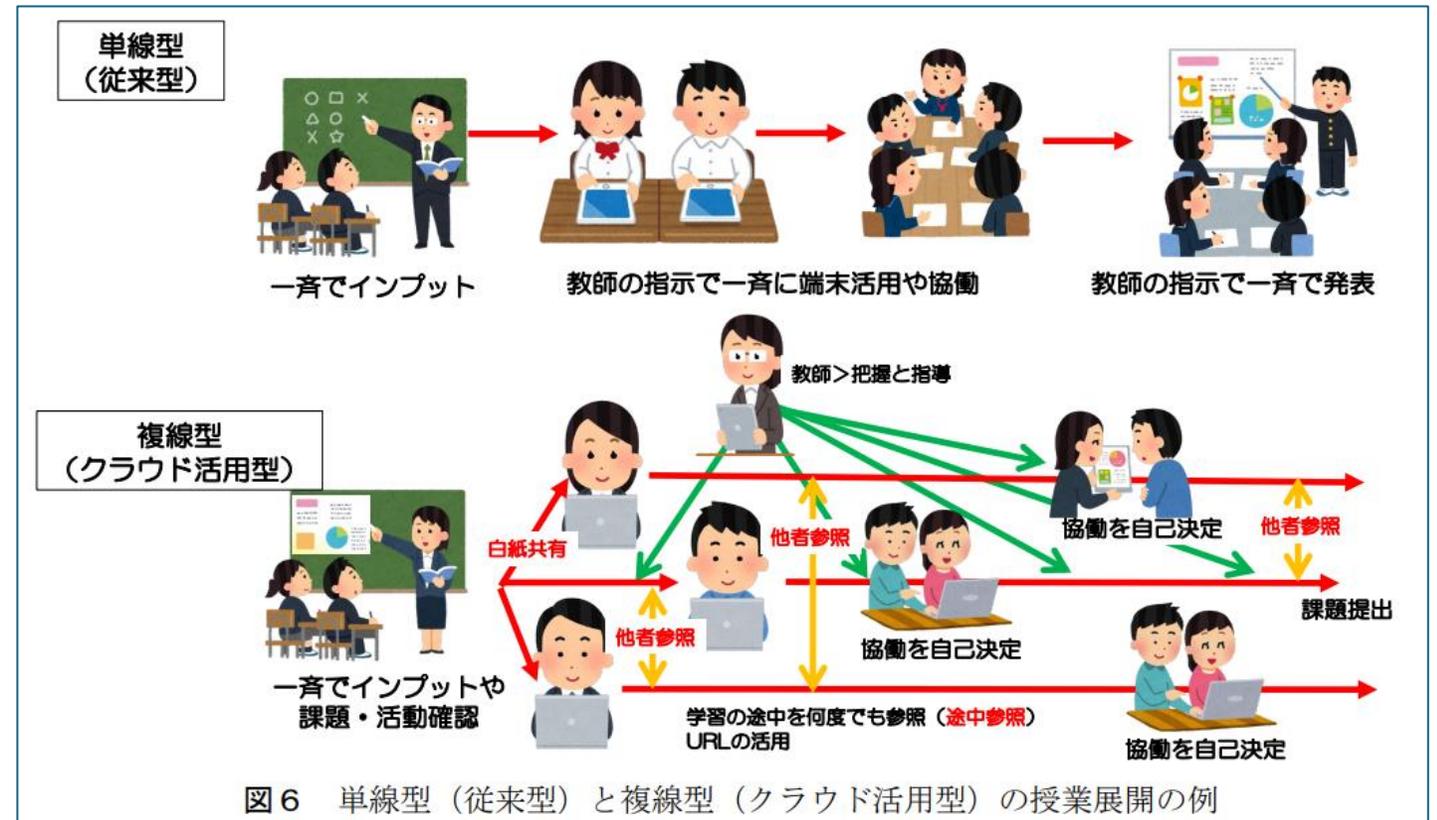
本計画の整備期間は令和7年度から令和9年度までの3か年とする。

第2章 1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

- これからの未来を豊かに生きていくには、自ら課題を見付け主体的に判断し解決に向け粘り強く取り組む力が求められている。これを実現するために、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」「探究的な学びの充実」に向け、これまで培ってきた授業実践に、一人一台端末を始めとするICT環境をベストミックスさせた授業改善に取り組んでいく。

- その際、ICTを活用し、一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うなどの「指導の個別化」、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」の充実を図っていく。また、児童・生徒が自ら判断し、創造性を発揮して必要な時に適切な（ふさわしい）使い方で、自由な発想で活用できるよう、学習の基盤となる情報活用能力の育成を図っていく。



2. GIGA第1期の総括

- 本市では令和2年度に「八潮市GIGAスクール構想」を策定し、八潮市が目指す学校教育における情報化の基本的な考え方や方向性を示し、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや、創造性を育む新しい八潮の教育を推進してきた。
- 令和2年度末には、市内の全児童・生徒と教職員への一人一台端末の配付を完了し、学校現場での一人一台端末の本格的な運用が始まった。また、それ以降、活用段階に応じた研修を実施するなどし、教職員の情報活用能力・指導力の向上を図ってきた。また、小学校でプログラミング教育が始まるにあたり、市内の小学校に研究委嘱し、外部講師を招き2年間にわたり研究を重ねた。

令和〇年度 学校 ICT 推進課

今年度 「端末活用は日常に 情報活用能力の育成を通して活用の活性化」

- ◎埼玉県共同訓達会議への参加と端末更新に向けた準備【継続】
- ◎ICT部会の運営と他部会との連携【継続】
- ◎Google事例校参加校への支援と構展開（GWEを活用した校務・学習面の取り組み）【継続】
- ◎教育情報セキュリティポリシーの策定【新規】
- ◎ネットワーク改善【継続】
 - ・第2期GIGAスクール構想に向けて（授業支援ソフト等の検討）【継続】
 - ・データ活用（スクールダッシュボード）【継続】 ・ゼロトラストに向けた準備【新規】
- ・デジタル教科書の活用（構展開）【新規】 ・研修の充実（別紙）【継続】
- ・ICT活用サイトの運営【継続】 ・GIGAスクール通信発行【継続】

RO年度の課題

- △ICT活用が学力向上に結び付いているのか・・・
- △教師間/学校間/校種間格差 活用の伸びの低下→◎日常化
- △ネットワークの改善（アセスメント等）
- △校務/校務外/学習系の通信環境の一元化
- △指導課、小中一貫教育推進室との連携
- △学校情報セキュリティポリシーの作成

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
行事等	始業式・入学			修業式	始業式				ブロック発表	修業式	始業式		修了式・卒業
学校 ICT (GIGA)	年度更新 ・クローム ・まなびP 端末調整 ICT部会① (3部会との連携)	ゼロトラスト申請					授業研究会		GIGA端末更新 中学校 11月～(予定) ICT部会① (3部会との連携)			年度更新準備 ・クローム ・まなびP ICT部会① (3部会との連携)	
Google事例校参加校支援 / 埼玉県共同訓達会議 / 児童生徒向けサイト開設 / 授業支援													
校務 ICT	年度更新 ・端末 ・C4th												
教科書	教科書親委員会 総取会(前期) 教材使用届 中学校指導書 関係手続き						総取会(後期)						
学習者用デジタル教科書の活用(英語・算数・数学) → 構展開(報告書)													
その他	GIGA スクール通信	EDIX展示会	市議会定例会 教育委員会報告	管理職 ヒアリング			市議会定例会	予算要求				市議会定 教育委員会報告	
Google打ち合わせ/GIGAスクール通信発行 / こころの天気 / 情報セキュリティポリシー作成 / ICT支援員報告会(毎月末) / 端末更新													

ICTに関する研修計画

八潮市 GIGA スクール構想
(八潮市立小・中学校 ICT 環境整備計画)

令和2年6月 作成
令和3年1月 改訂
令和3年3月 改訂
令和4年3月 改訂

八潮市GIGAスクール構想(令和2年度)

- 令和4年度には、八潮市小中一貫教育推進検討部会に「ICT部会」が新設され、各校のICT推進担当が集まり、小中9年間を見通したICT活用推進について話し合ってきた。ここでは、本市が目指す授業展開を示したモデルである「八潮市スタンダード」にICTを組み合わせた「八潮スタンダード×ICT」を作成し、市内の教職員に周知した。また、「八潮市プログラミング教育の手引き」も作成した。さらに、「八潮市ICT活用サイト」を開設しICTに関するオンデマンド研修動画や各種資料を取りまとめた。

八潮スタンダード×ICT (ver.1)

授業者は八潮スタンダードの「考える」「深める」の段階で授業支援ソフト「スクールタクト」、「まとめる」学習のふり返り、定着の段階で「Googleフォーム」「eライブラリ」を活用することで、児童・生徒の思考力・判断力・表現力を高める授業が展開できます。 ※必ずしも毎時間使用しなければならないものではありません。

つかむ・見通す	課題の明確化・学習意欲の喚起・解決の見通し	アドバンス1
NHK for School	T: NHK for School等の動画等を活用し、課題意識と学習意欲の喚起につなげる C: など	Googleフォーム (アンケート)
考える	思考の可視化 (思考の整理・個別の支援・意思表示)	アドバンス1
schoolTakt	T: スクールタクトで課題を一齐に配付する C: 共同閲覧 (他の解答を見ることができる) 共同編集 (他の解答に書き込みができる)の可否を選択 自分の考えをスクールタクトに書き込む インターネットで検索する 友達の見解を参考に (共同閲覧) 困っていたら @機能 で意思表示できる T: 一覧画面で全体を把握する 困っている児童生徒に個別支援 (直接又は端末から)	Zoomボード (共有ホワイトボード) Google検索 Googleスライド (プレゼンテーション)
深める	学びの協働化 (共有・比較・学び合い)	アドバンス1
schoolTakt	T: 共同閲覧・共同編集モードに切り替えて対話的な学びを実施する (ペア、グループ学習等) C: 学習者同士が互いに解答を見合せて、よりよい解答を見付けたり自分の考えを直したりする 自分の考えを見せながら説明する 協力して一つのファイルを完成させる 友達の見解と比較しながら自分の意見を伝える T: 電子黒板に個人・グループの意見を提示し、全体で共有する C: グループで話し合ったことを全体につなげる	Zoomボード (共有ホワイトボード) Googleスライド (プレゼンテーション)
まとめる	学びの個別最適化	アドバンス1
Googleフォーム (アンケート)	C: ふり返りをGoogleフォームに入力する ふり返りの蓄積から変化を見とる 発達段階に応じて解答方法を検討 (選択式、記述式) 一次時の学習に活用することも可能 C: 練習問題 (eライブラリ、フォームの小テスト) に取り組む 学習内容・理解度に応じた練習問題で学習の定着を図る	Googleサイト (ウェブサイト)
アドバンス2 反転学習	家庭で事前に「授業」を映像教材・動画等を用いて予習の形で受講し、学校の授業では学習内容に関わる意見交換などを中心に行うもの。「深める」に時間をかけることができます。	

八潮スタンダード×ICT

八潮市 ICT活用サイト

ホーム

八潮スタンダード×ICT

▼ アプリ等の基本操作方法

▼ 学校ICT推進より

リンク

問い合わせ先

八潮市 ICT活用サイト

GIGAスクール構想に係る様々な情報をまとめたサイトです

本サイトは八潮市の教職員を対象としています。市からお一人お一人に割り当てられたGoogleアカウントでログインした方のみ閲覧することができます。児童・生徒、保護者、その他の方は対象としておりませんので、本サイトに掲載情報の扱いにはご注意ください。ご不明な点は、「問い合わせ先」からメールでお問い合わせください。

お知らせ 2025.3.4 「ICT活用に関する意識調査」への協力ありがとうございました。結果は下記のとおりです。
⇒「ICT活用に関する意識調査結果」
GIGAスクール構想4周年を機に「更新」しました。

八潮市ICT活用サイト

小学校プログラミング教育の手引き

八潮市教育委員会

なぜプログラミングを学ぶのか

- 新しいヒーロー・ヒロイン
- 普遍的に求められる力
- 小・中・高を通じたプログラミング教育

▶ プログラミング ～子どもたちの可能性を広げるツール～

スマートフォンの普及、自動車など今日の生活ではコンピュータが様々な場面で活用され、人々の生活を便利で豊かなものとしています。コンピュータをより効果的に活用していくためには、その仕組みを知る必要があります。人がコンピュータに与える命令を「プログラム」といいます。命令を与えることを「プログラミング」と言います。我々がよく使っているアプリもプログラミングの組み合わせです。プログラミングを理解することで、コンピュータが「魔法の箱」ではなく、子どもたちの可能性を広げるツールとなること期待できます。スマホのアプリもプログラミング。「利用する側」から「作る側」になることで、新しいヒーロー、ヒロインの誕生だって可能なのです。

▶ 小学校プログラミング教育必修化の経緯

情報化の進展により、社会や人々の生活が大きく変化し、自身の子どもが働いて社会において、情報や情報技術を主体的に活用していき、情報技術を手段として活用していく力が重要であると指摘されています。子どもたちが将来どんな職業に就くとしても、情報技術を効果的に活用しながら、論理的・創造的に思考し課題を発見・解決していくためには「プログラミング教育」は非常に求められる力であるとされています。こうした経緯から、小・中・高等学校を通じて、発達段階に応じてプログラミング教育の実施を位置付けて導入していくこととなりました。

▶ 小・中・高のプログラミング教育

新学習指導要領では、2020年度の小学校を初めに、小学校、高等学校と順に必修化されました。小学校では情報活用能力の育成を図るため、「児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身につけるための学習活動を計画的に実施すること」としています。中学校では、技術・家庭科の技術分野の中で、高等学校では、現行内容が統合されて「情報Ⅰ」になり、更に発展的な内容として選択科目「情報Ⅱ」が新設されました。

校種	教科名	開始年度
小学校	各学年	2020年度
中学校	技術・家庭科	2021年度
高等学校	情報Ⅰ(必修選択科目) 情報Ⅱ(選択科目)	2022年度 2023年度

小学校プログラミング教育の手引き

- 令和5年度には、ICT部会で「情報活用能力体系表 八潮市版」を作成し、情報活用能力の育成に取り組むほか、ICTの効果的な活用について継続して研究に取り組んだ。一方で、各校でも課題研究の手立ての一つに「ICT活用」を取り入れるようになり、授業でのICT活用は日常となっている。

情報活用能力体系表【八潮市版】

※学年・校種の区分けは便宜上のものです。該当学年・校種で身につけていないスキルは遡って身に付けさせるようにしましょう。

			低学年	中学年	高学年	中学校
基本的な操作スキル	入力の基本技能	内容	ID、パスワード等の入力ができる (手書き入力、音声入力等)	正しい入力方法で文字を入力することができる (10文字以上/1分間)	正しい入力方法で文字を正確に入力することができる (40文字以上/1分間)	十分な速さで正確に文字を入力することができる (60文字以上/1分間)
		具体的な活動例	・キーボード30～18級 ・みんなでプログラミング：基本	・キーボード17～10級 ・みんなでプログラミング：基本/初級/中級	・キーボード9～6級 ・みんなでプログラミング：上級/超級/達人級	・キーボード5～1級
	クロームブックの基本的操作	内容	機器を扱うための基本的な操作ができる	機器を活用するために必要な操作ができる	機器を活用するために必要な操作ができる	
		具体的な活動例	・起動、ログイン、ログアウト、シャットダウン ・ドラッグ&ドロップ ・写真/動画の撮影	・入力モードの切り替え ・数値/ローマ字入力 ・切り取り/コピー/貼り付け ・タブの切り替え	・スクリーンショットの活用 ・ショートカットキーの活用	
	アプリケーション等の使用・操作	内容	Googleの基本的なアプリを選択・操作できる	Googleのアプリを選択・操作できる	目的に応じてアプリを選択・操作できる	目的に応じて適切にアプリを選択・操作できる
		具体的な活動例	・クラスルームに参加 ・meetでオンライン会議に参加	・簡単な文書の作成(ドキュメント) ・簡単な発表資料の作成(スライド)	・電子メールの送受信 ・簡単なアンケートの作成(フォーム) ・簡単な表やグラフの作成(スプレッドシート)	・簡単なサイトの作成(グーグルサイト)
インターネット検索に係る技能	内容	簡単な検索ができる	検索ができる	目的に応じた検索ができる	目的に応じて適切に検索ができる	
	具体的な活動例	・単語でキーワード検索 ・音声入力を活用して検索	・複数の言葉でキーワード検索	・AND,ORなどの条件を用いた検索	・完全一致検索、マイナス検索等の条件を用いた検索	
情報の保存・共有	内容	ファイルの呼び出し、保存ができる 【Googleドライブ】	ファイルの検索ができる 【Googleドライブ】	ファイルやフォルダの管理ができる 【Googleドライブ】	ファイルやフォルダの操作ができる 【Googleドライブ】	
	具体的な活動例	・撮影した写真の呼び出し/保存	・任意のファイルの検索 ・名前の変更	・フォルダの作成 ・ファイルの移動/コピー/削除 ・ファイルの共有設定と協働作業	・作成したフォルダを共有	

この間、「小中一貫教育推進検討部会 (ICT部会)」部会員を中心に、ICTを活用した新しい学びへの挑戦も積極的に行われた。

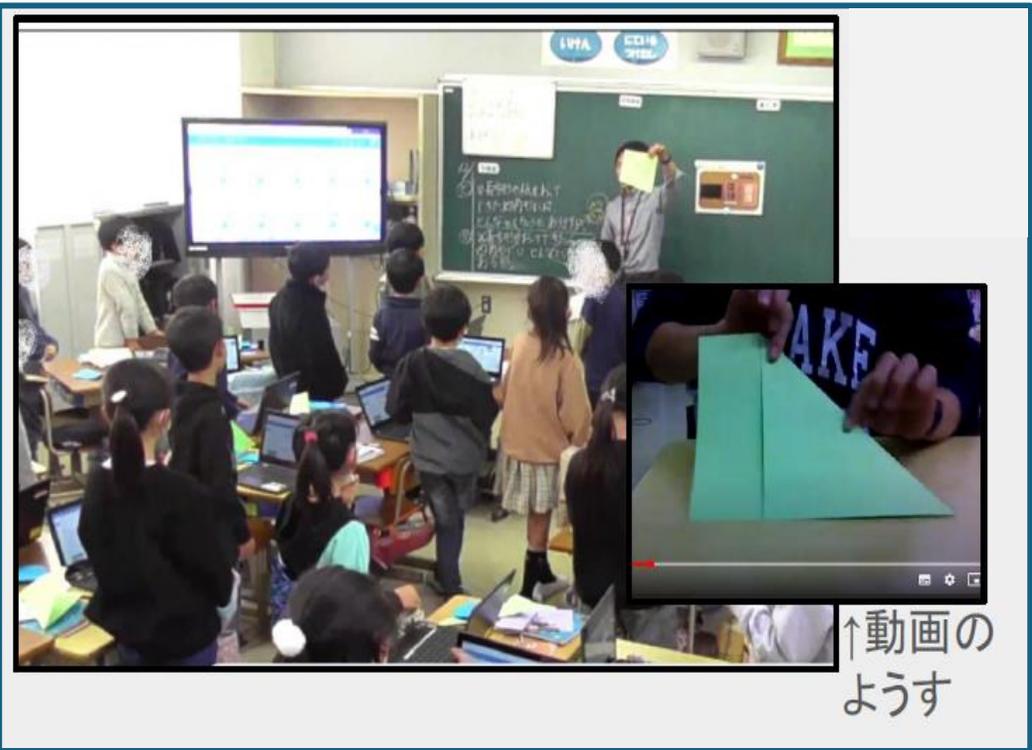
八幡中赤学年 PSP (パーソナル・スタディー・プラン) シート

1年生4章 数量の関係を調べて問題を解決しよう【比例と反比例】(22時間)

教科書の問題だけするのではなく、例や例題など、教科書をしっかり読みましょう

目安	単元	計画	主な学び方	できたから		めあて	学習内容	学び方		必ず	いつでもどうぞ
				できた	まだ			教科書	e-board (動画)		
①	角	1	4人で解くと				自分に合った学び方を考え、見直しをもって学習計画を立てることが出来る。				
1	A			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	関数の意味及び変域の意味と表し方を理解し、変域を不等号を使って表すことができる。	P114~117	関数とは...? 変域	学習カードNo.1	P271. 61番 (P117題1)
2	A			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2つの数量の間に関数の関係があるかどうかを判断することができる。	P118		学習カードNo.2	P271. 62番 (P118題4)
3	A			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	身のまわりの問題を、関数の考えを利用して解決することができる。	P119			
4	B			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	比例の意味を理解し、比例の関係を式に表すことができる。また、反比例の意味を理解し、反比例の関係を式に表すことができる。	P120~121	比例の図解 比例の式 反比例 反比例の式	学習カードNo.3	P271. 63番 (P120題1) P271. 64番 (P121題2)
5			4人で解くと	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	チェック① 基本の問題 (数P.122)	P122			

学習の手引き



【反転学習】松之木小学校
家庭学習で学習内容に関する動画を見て予め考えをもって本時に臨んでいる。(GIGAスクール通信44号)



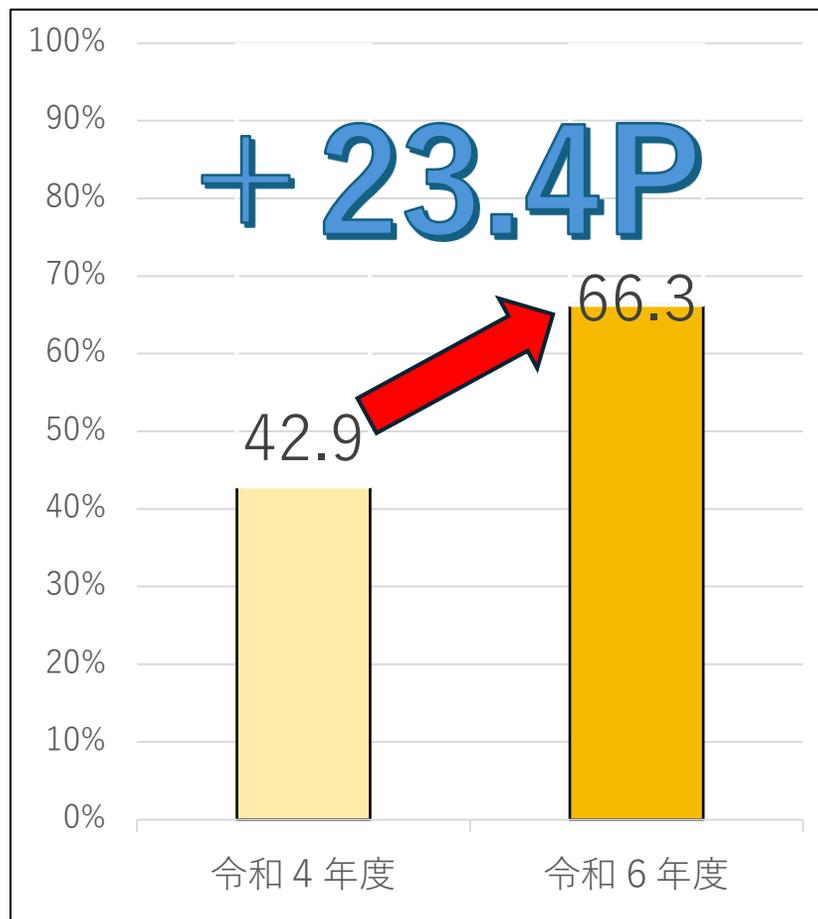
【ICTを活用した単元内自由進度学習】八幡中学校
児童・生徒は教師が作成した学習の手引き(単元計画)をもとに、各自の計画を立てて学習を進める。(GIGAスクール通信49号)

これまでの取り組みの成果と課題は以下のとおりである。

成果

- 授業での端末の活用が日常となった。令和6年6月に実施した調査で、「端末の授業での活用」に関して「ほぼ毎日使用している」と回答した教職員の割合は、小学校で66.3%、中学校で39.5%となった。令和4年度の同時期の調査結果は、小学校で42.9%、中学校で18.6%であったので、小・中ともに20ポイント以上、上昇した。

端末の授業での活用について
「ほぼ毎日活用している」と回答した割合



小学校

中学校

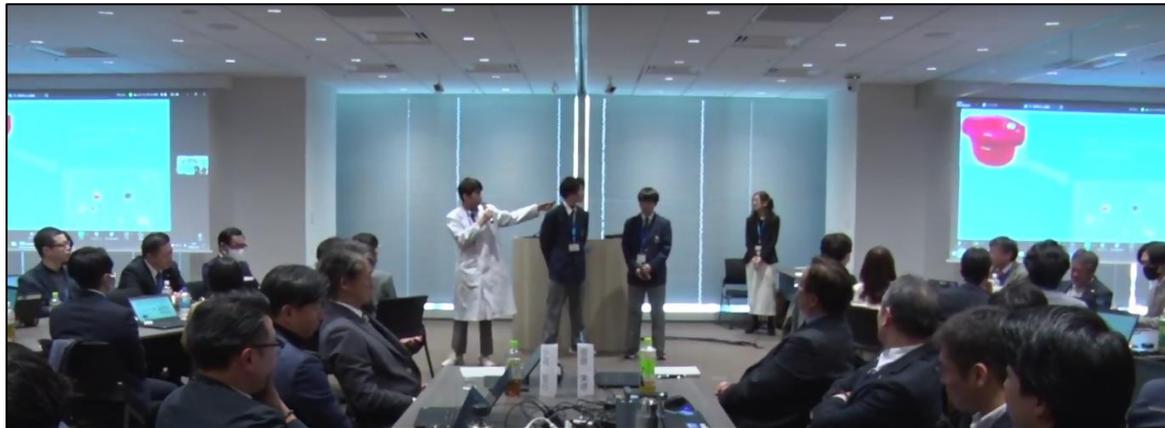
ICT活用に関する意識調査（教職員対象）

- 中学校の総合的な学習の時間の取組では、企業とのつながりの中で一人一台端末が有効活用されている。年に数回程度しか来校できないゲストティーチャーとクラスルームでつながることで、日々の学習の中で生じた疑問等をオンラインで質問し、回答や助言を得ることができた。このように、時間や場所の制約を取り払った効果的な活用事例が増えてきた。

Meetで社員の方と接続をして、実際にプレゼンテーションを行い、すぐにアドバイスをいただき、ブラッシュアップする授業を行った。すぐにアドバイスをいただけて、疑問に思ったことや相談について会話をしながら行うことができるため、より詳しく内容を把握できた。メールでのやり取りよりも顔を見て行うことができるため、内容が伝わりやすいと感じることができた。



Google for Educationの活用(2025. 八幡中学校)より



企業でのプレゼンテーション

- 学習した成果等のアウトプットの手段として、Googleスライド、Googleサイトなどのデジタルツールの活用が積極的に行われるようになった。

課題

- 端末の故障・破損への対応に時間と費用を要している。第2期では、十分な予備機の購入と第1期の購入端末の効果的な活用を行うことでこれに対応する。また、「GIGA端末の手引き(児童・生徒、保護者用)」を活用するなどして、各校で端末の丁寧な取り扱いについて引き続き指導をお願いする。
- 各校のネットワーク機器の性能や回線契約、地域の特色等により、端末を活用したクラウドベースの学習を実施する際、繋がりにくくなるなどの事象が生じることがある。安心して活用してもらうために、整備計画に基づき、ネットワークの改善を実施していく。
- 全体の端末活用率は高いものの、依然として学校間、校種間で格差がある。ICT部会を中心に継続して活用推進に取り組んでいく。また、段階に応じた教職員向けの研修を計画的に実施し、教職員の情報活用能力・指導力を着実に向上させていく。

Chromebook 利用の手引き

《児童・生徒・保護者用 利用規定》

八潮市教育委員会

はじめに

八潮市では令和2年度に「八潮市 GIGA スクール構想」を作成し、児童生徒1人1台に学習用端末を配付しました。現在、市内では授業を始めとする様々な学習場面で GIGA 端末を活用した実践が広がっています。子どもたちがこれからの未来を豊かに生きていくには、情報活用能力を基盤に、自ら課題を見つけ、主体的に判断し、解決に向け粘り強く取り組む力が求められています。児童・生徒が自ら判断し、創造性を発揮して必要な時に適切な使い方で活用できるよう、学習の基盤となる情報活用能力の育成を図っていきたいと考えております。

1 目的

本手引きは GIGA 端末（以下 Chromebook）の利用に伴う、情報の漏洩、改ざん、破損及び紛失を防止し、学習用ツールとして効果的な活用を進めることを目的に定めるものです。

2 貸与する機器について

- ◆ Chromebook 及び充電ケーブル
※ Chromebook 及び充電ケーブルは必要に応じて持ち帰ることができます。
- ◆ モバイルルーター（希望者）
※ ご家庭にインターネット環境が整備されていないなどの場合、希望者にモバイルルーターを無償で貸し出します。但し、通信費用等は各家庭でのご負担となります。

3 使用する学習用コンテンツについて

- 本市が導入している主な学習用コンテンツは以下のとおりです。
- ◆ Google Workspace for Education（学習支援ツール）
 - ◆ スクールタクト（学習支援ツール）
 - ◆ ラインズ e ライブラリ（AI 型デジタルドリル）
 - ◆ まなびポケット（ポータルサイト ※入り口となるサイト）

4 所有者・管理責任者

- ◆ Chromebook の所有者は、八潮市教育委員会です。
- ◆ Chromebook の管理責任者は、各校の校長です。

5 遵守事項① セキュリティ対策

- ◆ 学習用端末として利用するのは、八潮市教育委員会から貸与した Chromebook となります。貸出機器以外でのログインはしないでください。
- ◆ 転出又は卒業時には、速やかに管理責任者へ Chromebook 等を返却してください。
- ◆ いかなる場合も学校の許可なしに Chromebook に他の情報機器を接続しないでください。

3. 1人1台端末の利活用方策

「2」の総括を踏まえ、「1」で示した「目指す学びの姿」の実現に向け、下記の基本方針に基づき利活用を進めていく。そのために、端末の整備・更新を計画的に進め、児童・生徒が一人一台端末を利活用できる環境を維持していく。

(1)一人一台端末の日常的な活用に向けて

- ①「効果的な端末の活用」を大切な視点としつつも、効果の有無で活用の是非を判断しないよう、学習の基本的なツールの一つとして位置付ける。
- ②段階に応じた研修を計画し、教職員の汎用的なソフトウェアを基本とした情報活用能力・指導力の向上を図る。
- ③日常業務である校務での汎用的なソフトウェアの活用を推進し、授業での活用につなげる。市内5校にGoogle事例校認定を目指した学習・校務の両面での活用推進をお願いしており、これらの実践を順次他校に広げていく。

Google for Educationの活用

～Googleツールで実現する円滑な学校運営～

埼玉県八潮市立八幡中学校

校務編 ①Googleチャット



職員間のリアルタイムの情報交換として日常的にチャットを活用

<スペースの種類>

- (1)出欠席電話連絡(学年別連絡) (7)教育相談部会
- (2)教職員全体連絡 (8)部活動関係
- (3)1学年, 2学年, 3学年, しえん (9)校長の部屋
- (4)学年外電話連絡 (10)回覧専用
- (5)運営委員会 など
- (6)生徒指導関係

(2)個別最適で協働的な学びの 一体的な充実に向けて

- ① 端末を使用することで充実する、個別最適で協働的な学びについてのイメージを共有するため、端末やソフトの操作・活用法の研修だけでなく、先進校の事例紹介や有識者を招いた研修等も実施する。また、文科省のGIGA StuDX StyleやYouTubeのオンデマンド研修資料を積極的に活用する。
- ② 小中一貫教育推進検討部会「まなび(学力)部会」と連携し、これまでの八潮市の教育実践のノウハウと、ICTを活用することで実現する新しい学びのベストミックスを追求する体制を整える。
- ③ 授業者の計画のもと、一人一人の学習者が、学習方法や学習過程等を選択し、自らの学びを調整しながら進める学習法など、端末を活用することで実現する新しい学びについて調査・研究する。
- ④ 児童・生徒が自ら判断し、必要な時に適切な(ふさわしい)使い方で、自由な発想で活用できるよう、学習の基盤となる情報活用能力の育成を図っていく。



文部科学省 StuDX Style スタディーエックススタイル

中央教育審議会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)【総論解説】

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

社会背景

【急激に変化する時代】

- 社会の在り方が劇的に変わる「**Society5.0時代**」
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大など先行き不透明な「**予測困難な時代**」
- 社会全体の **デジタル化・オンライン化、DX加速の必要性**

子供たちに育むべき資質・能力

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようになることが必要

【ポイント】

- ✓ これらの資質・能力を育むためには、**新学習指導要領の着実な実施**が重要
- ✓ これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、**ICTの活用**が必要不可欠

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

「日本型学校教育」とは？

子供たちの知・徳・体を一体で育む学校教育

- 学習機会と学力の保障
- 全人的な発達・成長の保障
- 身体的・精神的な健康の保障

【新しい動き】

新学習指導要領の着実な実施

学校における働き方改革 GIGAスクール構想

【成果】

- 国際的にトップクラスの学力
- 学力の地域差の縮小
- 規範意識・道徳心の高さ

【今日の学校教育が直面している課題】

- 子供たちの多様化
- 生徒の学習意欲の低下
- 教師の長時間労働

【新しい課題】

- 情報化への対応の遅れ
- 少子化・人口減少の影響
- 感染症への対応

「正義主義」や「同調圧力」への偏りからの脱却

一人一人の子供を主眼とする学校教育の実現

「日本型学校教育」の良さを受け継ぎ、更に発展させる/
新しい時代の学校教育の実現

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)【総論解説】

(3)誰一人取り残さない学びの充実に向けて

☰ 心の健康観察アラート  3日連続で「あめ」または「かみなり」の場合アラートを適用

直近7日間

	10/19	10/20	10/21	10/22	10/23	10/24	本日
1年1組 阿部 太郎	☀️☀️	☁️☁️	-	-	☁️☀️	☀️☁️	☀️☀️
1年2組 鈴木 花子	☀️☁️	☀️☁️	-	-	☀️☁️	☀️☁️	☀️☀️
1年1組 中澤 隆	☀️☀️	☀️☀️	-	-	☀️☀️	☀️☁️	☁️☀️
2年3組 小林 健二	☀️☀️	☀️☀️	-	-	☁️☁️	☁️☁️	☁️☁️
1年3組 元気太郎	☀️☁️	☀️☁️	-	-	☀️☀️	☁️☁️	☁️☀️
1年1組 まなび太郎	☀️☀️	☀️☀️	-	-	☁️☁️	☀️☁️	☀️☀️

心の健康観察(まなびポケット)



オンラインで児童・生徒に学習支援

- ①児童生徒の悩みや心の不調等を早期発見し、支援につなげる手段として、一人一台端末を活用した心の健康観察の実施に向けた取組を進める。
- ②十分な予備端末を準備し、故障や破損等の際に速やかに代替機を使用できる環境を整え、一人一台端末を活用した学びに支障が生じないようにする。

- ③様々な事情で登校できない児童・生徒、登校したが教室に入れない児童・生徒等の学びの保証として、オンライン授業、オンデマンド教材、学習支援アプリの活用など、ICTを活用した学習支援を充実させる。

第3章 端末整備・更新計画

【端末の整備・更新計画の考え方】

令和7年度に中学校(2,100台)、令和8年度及び令和9年度に小学校(4,440台)に分けて更新する予定である。

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
①児童生徒数	6,270	6,400	6,442	6,540	6,546
②予備機を含む 整備上限台数	6,772	6,912	4,689	2,451	6
③整備台数 (予備機除く)	0	2,100	2,171	2,269	6
④③のうち 基金事業によるもの	0	2,100	2,171	2,269	6
⑤累積更新率	0.0%	32.8%	66.3%	100.0%	100.0%
⑥予備機整備台数	0	168	174	182	0
⑦⑥のうち 基金事業によるもの	0	168	174	182	0
⑧予備機整備率	0%	8%	8%	8%	8%

第4章 ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合(%)

「校内通信ネットワーク環境整備等に関する調査」(文部科学省・令和5年11月実施)の結果では、「学校規模ごとの当面の推奨帯域」(文部科学省・令和6年4月)を超える学校は2校のみであった。また、同調査によると、「ネットワークが遅い・繋がりにくいと感じることはあるか」という設問に対して、「よくある」と回答した学校が15校中3校、「たまにある」と回答した学校が9校あった。

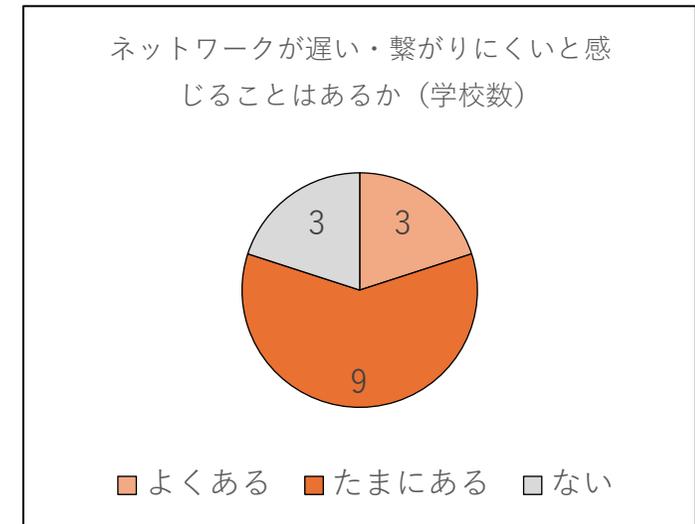
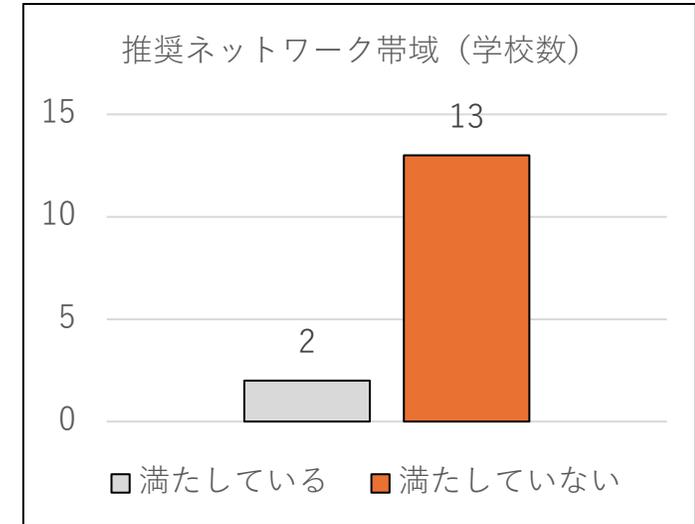
2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

(1) ネットワークアセスメントの結果

令和5年度に市内3校(小学校2校、中学校1校)を対象としたネットワークアセスメントを実施したところ、ネットワーク回線やネットワーク機器に課題があることが分かった。なお、ネットワークアセスメントを実施していない12校(小学校8校、中学校4校)についても、市内3校のネットワークアセスメントの結果に基づき、令和7年度内にネットワークの改善について机上調査を実施する。

(2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

ネットワークアセスメントの結果を踏まえ、日常的に端末を活用する学校教育活動の展開に際し、児童生徒や教職員の端末利活用に支障が生じないように、各校の教育現場において実際に求められるネットワーク環境の整備を目指し、必要なネットワーク速度の確保のみに係らず、令和7年度内に市内全15校のネットワーク環境の改善を順次実施する。



第5章 校務DX計画

1. 現状と課題

- 本市では、令和4年9月より統合型校務支援システムを導入し、これと同時に校務用パソコンの更新も行った。また、学習系と校務系のネットワークを分離し、校務系では仮想デスクトップを採用し、セキュリティの確保を行ったうえで安心して活用できる環境を整えている。

ようこそ エデュコムマネージャーC4thへ

市内共通 成績 トップ1

印刷

1行メッセージの内容を変更したい場合は、設定>個人設定>学校トップページ

連絡掲示板 未読件数 54件

個人連絡 未読件数 3件

文書連絡 配付・回収 回答あり8件

文書連絡 受理 未読997件 未送信903件

連絡掲示板

個人連絡

予定表

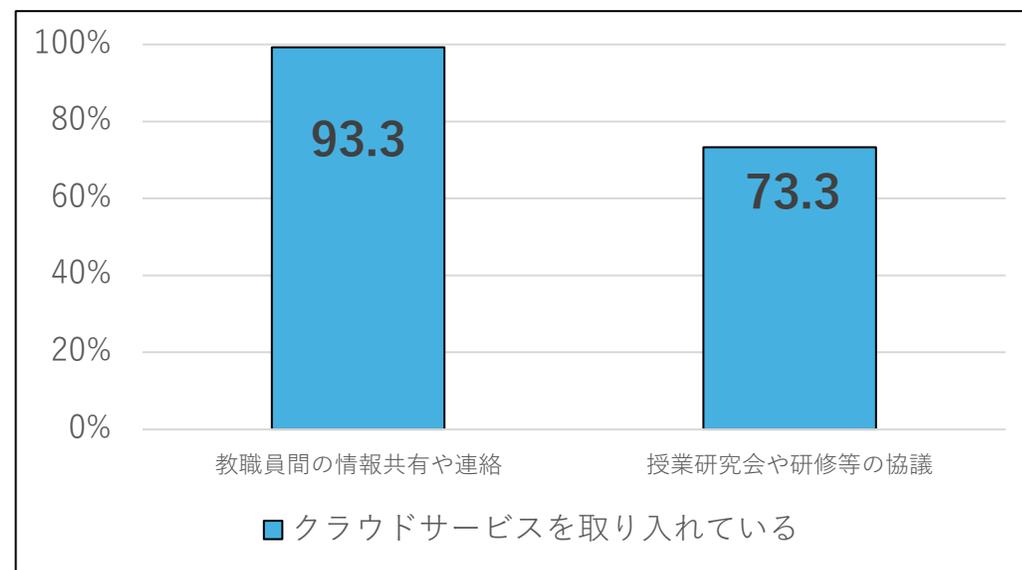
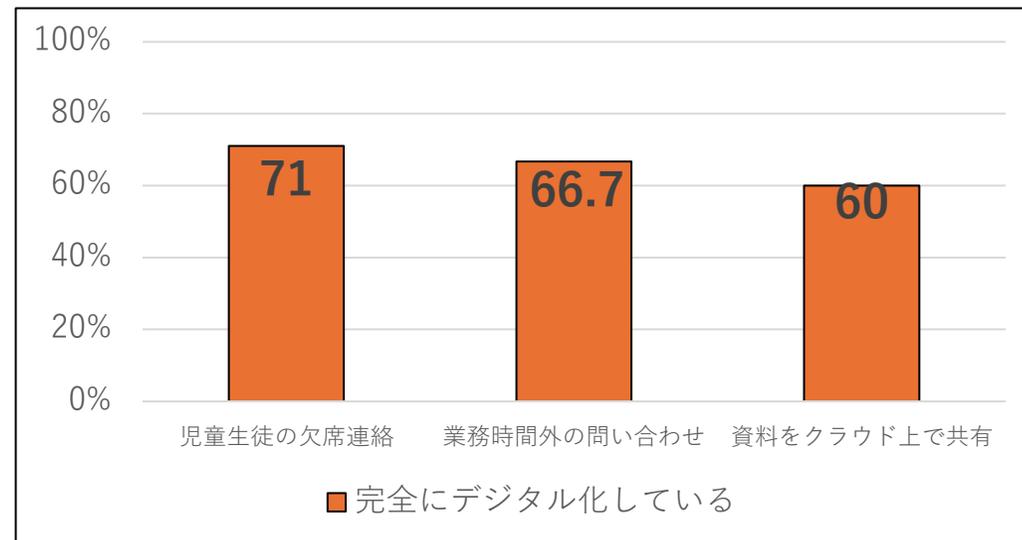
ラベル	タイトル	カテゴリ名
●	C4th機能停止	事務職員掲示板
●	着任届等記入例R7 その2	事務職員掲示板
●	直近の仕事確認【3月】その4	事務職員掲示板

統合型校務支援システムC4th

- 統合型校務支援システムでは、教育委員会と学校間の情報共有や、個人連絡、文書連絡、指導要録、出席簿、学級日誌の機能などを整備し、業務のデジタル化を推進している。また、別途保護者連絡ツールを導入し、保護者からの欠席連絡等の受け取り、学校からの手紙の配付などをデジタルで行っている。

- これらの取組の結果、令和6年10月の「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリストに基づく自己点検」の実施結果（令和7年1月）では、「児童生徒の欠席連絡（約71%）」「業務時間外の問い合わせ（66.7%）」「資料をクラウド上で共有（60.0%）」が「完全にデジタル化（ペーパーレス化）している」と回答している。また、「職員間の情報共有や連絡（93.3%）」「授業研究会や研修等の協議（73.3%）」が「クラウドサービスを取り入れている」と回答している。統合型校務支援システムを中心とした、校務の改善が進んでいる様子が分かる。
- しかし、一方で、60.0%が「現金以外での学校徴収金の徴収」を「全くしていない」、86.7%が「押印が必要な書類」が「ある」と回答する等、校務DXを進めていくうえでの課題も明らかになっている。

GIGAスクール構想の下での校務DX
チェックリストに基づく自己点検結果（2025.1）

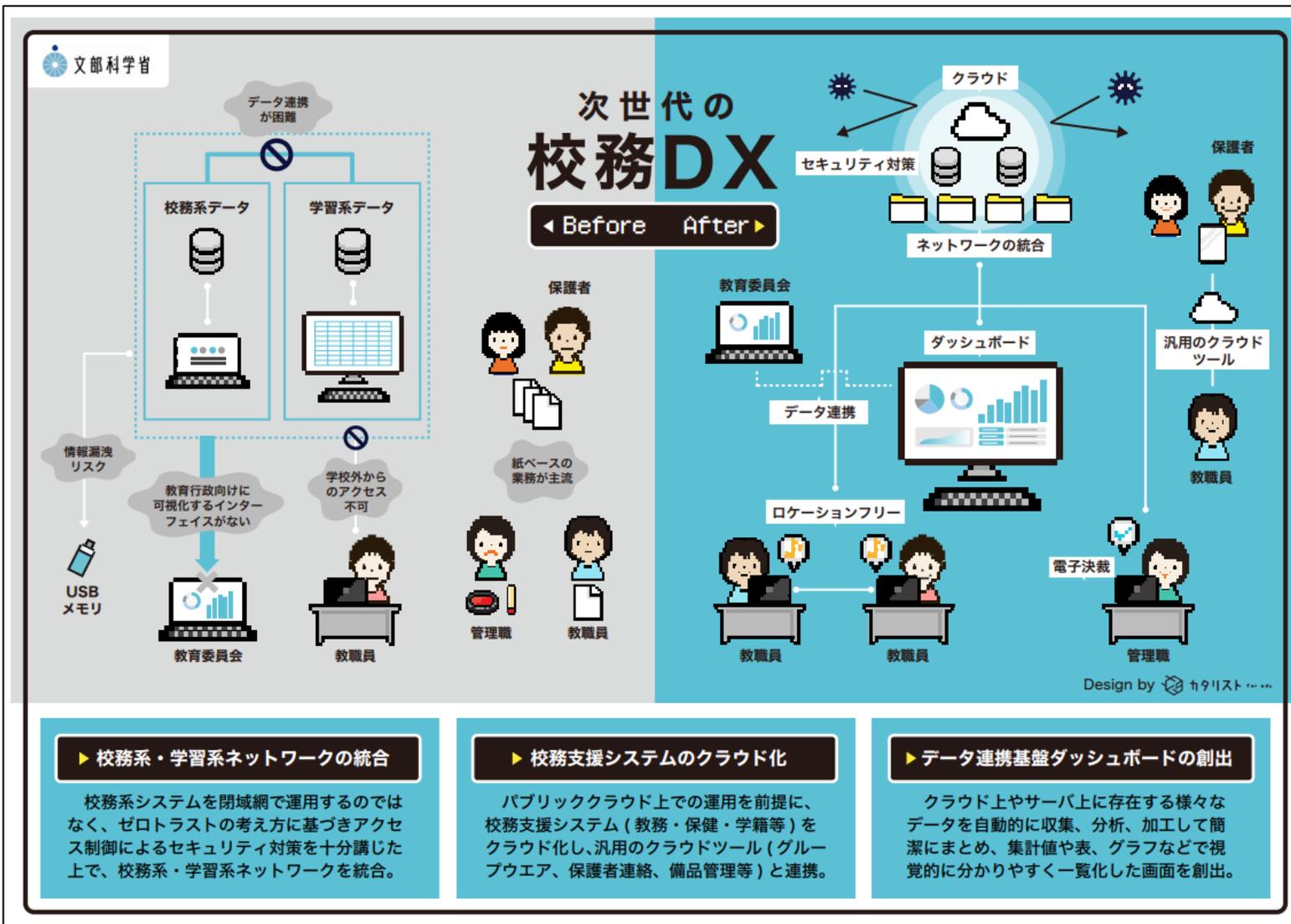


2. 課題策と今後の方向性

「1」で挙げた課題や各種提言等を踏まえ、今後の校務DXの更なる推進に向け次のような方向性で取り組んでいく。

(1) 校務系・学習系ネットワークの統合と、次世代の校務支援システムの整備

現状のネットワーク分離は、セキュリティ確保の面では安全性が高い環境であるが、ネットワーク間を行き来する際の認証作業やデータ移動の手間など、業務の効率という面では課題が残る。今後は、校務端末と学習端末の統合、ネットワークの統合を行い、2段階認証等によるセキュリティ環境を整え、ゼロトラストの考えに基づく、クラウド環境での校務支援システムが運用できるよう調査・研究していく。



(2) クラウドを前提としたGIGAスクール環境の積極的な活用

教材の共有、保護者から学校への提出物のデジタル化など、クラウドベースの汎用的なソフトウェアを校務で活用することで、不合理な作業の削減が可能である。しかし、これにはデータの収集や利用、保管に関する取り決めや保護者同意、アクセス権限の適切な設定など、教育情報セキュリティポリシーに基づいたデータの取り扱いについて適切に運用される必要がある。引き続き早期の教育情報セキュリティポリシーの策定に向け、また、より効果のあるサービスの利用方法について調査・研究していく。

(3) 書類への押印の見直し、文書連絡のデジタル化の一層の促進

学校と教育委員会とのやり取りには、令和4年度より統合型校務支援システムの個人連絡機能が活用できるようになった。また、令和6年度からはこれに文書連絡機能が加わり、学校への通知や教育委員会への提出を同システムで行っている。しかしながら、端末が限られていることや、依然として紙での提出を求めているものもあり、業務がより複雑化したとの学校からの意見もあった。また、押印については、アンケートフォームで置き換えることができないかなどを考えていき、その必要性についても再検討し、押印・署名の原則廃止に向けて調査・研究していく。

おわりに

八潮市立小・中学校ICT環境整備計画の推進は、小中学校における教育内容、校務の処理方法などに影響することとなる。また「教育の情報化」は、学校に勤務する教職員の理解がなければ、実現することはできない。そこで、この計画について、校長、教頭及び職員、学校事務職員など学校関係者へ適宜必要な情報提供を行い、理解と協力が十分に得られるよう進める。

